

アクティブな学びの構えづくり—授業を自宅学習につなぐ小さな工夫

杉江 修治

アクティブな学びの何よりの要件は、学生を動かすことではなく彼らの「学びの構え」を積極的なものに変えることである。それにより、たとえ講義中心の授業であっても「学びとろう」という学習態度が生まれ、「頭の中をアクティブに」することができる。

学びの構えづくりは教員の仕事である。とりわけ導入の工夫は欠かせない。導入で配慮すべき要件は3つあると考えている。一つは明確に本時の学習目標を示すこと、言い換えれば、今日、受講者は学習を通してどう変わることができるのかを明示することである。二つ目は、学習の進め方を示すことである。突然グループ活動を指示されても、その構えをもたずに受講していれば戸惑いが生じるのは当然である。今日の90分はどんな学習活動をどんな時間配分で進めるのか、予告しておくことで、学生たちは今自分がどの学習ステップにいるか、次に何があるか承知でき、自分で動くことができるようになる。三つ目は、本時の学習の値打ちを知らせることである。値打ちを理解できれば学習者の意欲が高まり、理解しようという前向きの活動が促される。

私はこの手続きを当該時の学習課題を明示したワークシートの配布によって行ってきた。本時の課題をそこに示し、学習の流れと値打ちを説明してから授業に入るのである。この手続きを取ることで、講義中心の時間であっても、そして私は板書はしないのだが、学生が自主的にノートを取る姿が大幅に増加した。私の授業における講義の意図は、私自身が作った教科書をいかに理解するかを枠組みを知らせるところにある。また、その内容が教育実践上どのような意義があるかについて、教科書には書かれていない新しい実態と絡めて解説するというところに置いている。教科書を教えているわけではない。

ワークシートを配布する折には、そこに最終的な学習の振り返り、すなわち、自分としてはそれぞれの課題をどう理解したか、教科書も参照しながらまとめ、自身の学習をしっかりと振り返るよう指示をしてきた。これは聞きっぱなしが学びではないこと、自分が変わることが学習だということを自覚させる手続きでもある。毎時のワークシートは期末試験に持ち込むことを可としている。したがって、それをしっかり完成することが学習者に不可欠となる仕掛けともなっている。

ところが、最近、授業中に、講義を聞かず、そのワークシートに教科書の内容を写している姿を散見するようになった。一見アクティブだが、授業による理解の広がりのない受講態度である。そこで、今年度から小さな工夫を加えた。

本時の学習課題、学習の値打ち、学習の進め方は事前にワークシートを配布せず、パワーポイントで示すにとどめた。ワークシートの配布は授業終了後とした。この工夫を取り入れてまだ期間は短い、これまで以上にノートを取る学生の姿が活発化した。ワークシートは家庭学習で完成せざるを得ない形になっている。期末の試験での受講生の記述内容がどう変化するか、楽しみではある。